

私の身のまわりである税金で支給されているものといえば教科書だ。

「この教科書はこれからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

この二文は、教科書の後ろに書いてあるものだ。この二文に、深い意味を感じた出来事があった。これから、それを紹介していこうと思う。

私の祖母から聞いた話である。私の祖母は2歳の時に終戦をむかえ、福井地震にもあった。兄弟もたくさんいて、お金もなく、その時の生活は今では考えられないくらいだったそうだ。

ある日、私が新しい教科書を見せたとき、

「きれいな教科書。ばあばのときは、おふるだったわ。」

どういうこと？この言葉が頭に浮かびました。教科書は無料でもらえるのが当たり前で、もちろん、おふるなんて考えられない。教科書は内容が少し変わることだってある。だから教科書がおふるなんて考えられなかったのである。私はわけを聞いた。

「そのころは、教科書を税金でもらえるものじゃなかったんだよ。自分たちの家のお金で買っていたんだ。」

また、祖母と祖母の兄は年ごだったため、買ってもらうことなんてできなかったそうだ。

この話を聞いて、教科書が無料でくばられるのが当たり前なんじゃない。お金をはらわずにもらえることがすごい事なんだ、と強く感じた。

そして、最近、祖母と母がよく言う言葉がある。

「勉強が一人で出来ていると思うな。」

という言葉だ。先ほどの祖母の体験した話とかさね合わせると、とくに分かる言葉だ。また、今も一人でできていない。教科書や文房具などの勉強道具。それを買ってきてくれたり、ごはんを作ってくれたり、生活を支えてくれたりする家族。暮らしを支える税金と家族がいなければ、勉強はもちろん、生活すらできなくなってしまうだろう。

税金は私たちの暮らしで必要なもの。道路をつくったり、公園をきれいにしたり、学校や図書館をつくり管理したりする。普段生活しているなかではなかなか気付かない。でも、祖母の体験を聞いてから知った税金の役割はとても大きなものだと感じた。

教科書に書いてある二文には

「これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ」

と書かれている。私たちは、税金の役割と必要性を知り、大人になったときにそれを恩返しできるように暮らしていけたら良いと思った。